



地域資源を活かして商店街の新たな魅力を創出！

京都市内には142（令和2年2月時点）の商店街があり、京都で暮らし、働き、学ぶ人々の日常の暮らしを支えるとともに、地域の賑わいや人々のふれあいの場を創出しています。また、地域コミュニティの核として、地域の祭事や伝統行事など、生活文化・歴史文化の継承や、専門性の高いユニークな店舗の集積といった特徴ある街の魅力を発信するなど、観光客にとっても訪れて楽しい空間となっています。

一方、商店街を取り巻く環境は、ライフスタイルの多様化や少子化・高齢化など社会構造の変化、インターネット販売の普及など、目まぐるしく変化しています。加えて、商店主の高齢化・後継者不足に伴い、空き店舗の増加や商店街活動の担い手不足などの課題も生じてきています。

そのような中、京都市では、活性化を図る取組に前向きな商店街に対してコーディネーターを派遣し、事業の担い手となる地域の外部団体との連携を促すことで、新たな商店街活動に結び付ける事業に取り組んできました。この事業では、8つの商店街※に対して、地域特性を活かした独自の取組を支援してきましたが、そのうちの一つ、下京区の「西七繁栄会」の取組を御紹介します。

※紫明商店会（北区）、新町商店街（北区）、西陣京極会（上京区）、高野ウエスト商店街（左京区）
西七繁栄会（下京区）、嶋原商店街（下京区）、七条中央サービス会（下京区）、丹波橋繁栄会（伏見区）

■ 西七繁栄会の取組（平成30年度～令和元年度）

「商店街のお店を地域の方々に知ってもらいたい」

「会員店舗を増やしたい」

「商店街に古くからある街の御堂を活性化に活かしたい」

西七繁栄会では、下京青少年活動センターと連携して、まずは商店街周辺の寺院・神社といった隠れた魅力スポットも掲載したパンフレットを作成。配布活動も同センターと連携して実施し、地域の方に広くアピールしたことで会員店舗も増加しました。

また、龍谷大学龍谷ミュージアムと連携し、商店街にある正法寺別院「七条えんま堂」と祀られている十王坐像等を調査。歴史的・文化的価値を改めて確認するとともに、御堂を活用した賑わいづくりを検討するプロジェクトも立ち上がりました。中でも十王坐像は、鎌倉時代から室町時代後期のもので、御堂にこれほど多数の座像が集まっている貴重さから、龍谷ミュージアムで開催された特集展示「西七条のえんま堂」（令和2年9月12日～11月3日）は注目を集め、多くの来館者で賑わいました。

商店街の皆様からは、「隠れたスポットが発掘された」「今後の活性化の契機としたい」といった期待の声が寄せられており、御堂を商店街の新たな観光資源として、また、地域のコミュニティスペースとして活用するなど、商店街の魅力創出につなげています。

コロナ禍においても、商店街の皆様は、日々感染防止対策を徹底しながら、地域で暮らす消費者を支えるとともに、地域の魅力を発信し続けています。

皆様も、是非お住まいの地域の商店街でぶらりお買物をしてみてください。きっと地域の魅力を再発見できますよ！



七条えんま堂（提供：株式会社写真化学）



手に取りやすい縦長タイプのパンフレット